すたれ

全

へ10
4626

門へ 10
4626
巻

宮内省
雑書

宮内省
図書寮

[illegible]
[illegible]
[illegible]

たゞよとゝもを哥ひてのとゝたる
詞の所ゝとてゝとゝたるゝ
さゝゝゝ此かと哥ゝとゝるゝとゝ
唱ゝゝゝゝゝゝひとゝゝゝてはとゝるく
いくよゝねゝるゝのゝゝ歌と祝ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝおのゝゝゝゝゝゝ

ちはやふるかみよもきかぬたつたがわ
からくれなゐにみづくくるとは

ちはやふるかみよもきかぬたつたがわ
からくれなゐにみづくくるとは

なるかみのおとにのみきくあまのはら
ふもとにかよふたきつせかな

なるかみのおとにのみきくあまのはら
ふもとにかよふたきつせかな

ちはやふるかみよもきかぬたつたがわ
からくれなゐにみづくくるとは

なるかみのおとにのみきくあまのはら
ふもとにかよふたきつせかな

須須美州

おなじもかすがたむけ侍りしわ殊(コト)よ綾(ワヅツニシ)錦

神(カミ)乃。惠(フツ)に清浦乃つどさるかつけも川もあせた

ちてぞ。ちもづ小紅色にうつろひてせらるゝべど。

これもあつまりたる乃ゝふそ。川こそ涼しむ

らゆるなりけ。かくらこそは。手ぶるとゆきもも

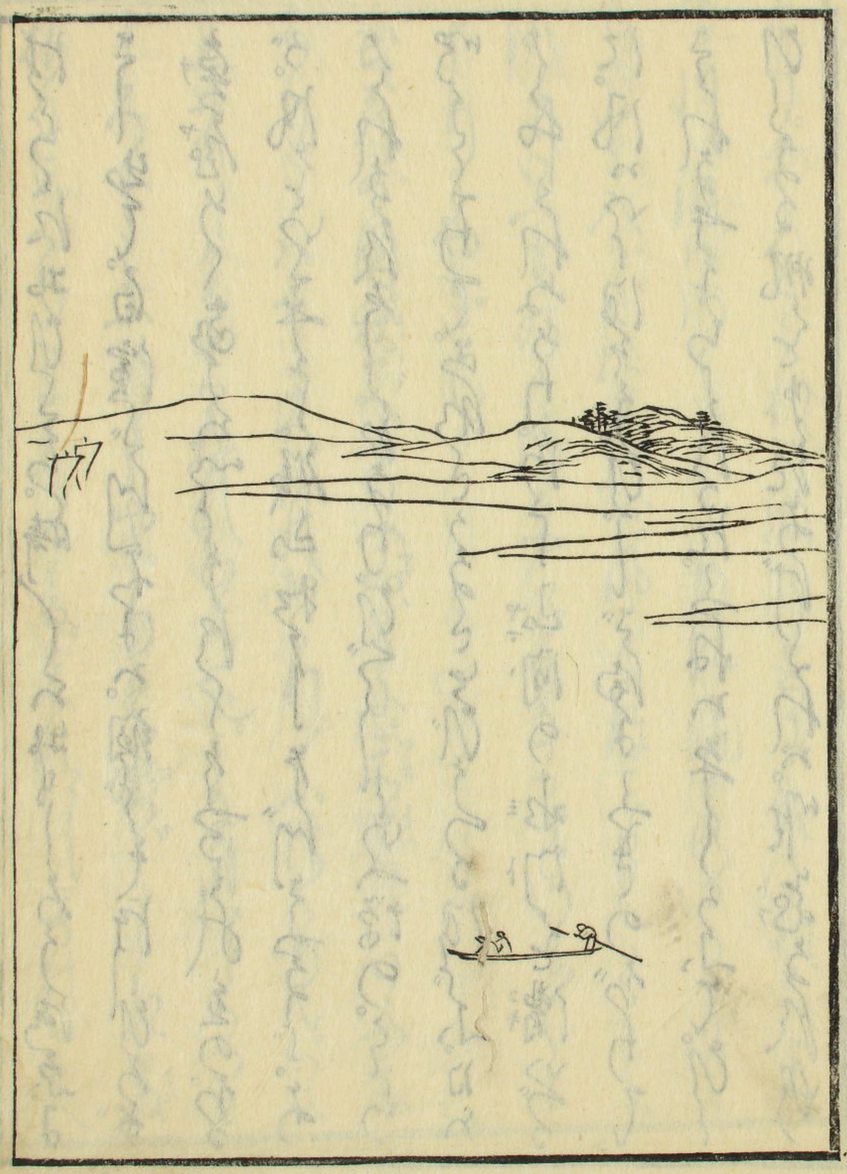
ちもいで。やうゝこゝろ乃中も深つくるけ。あれ

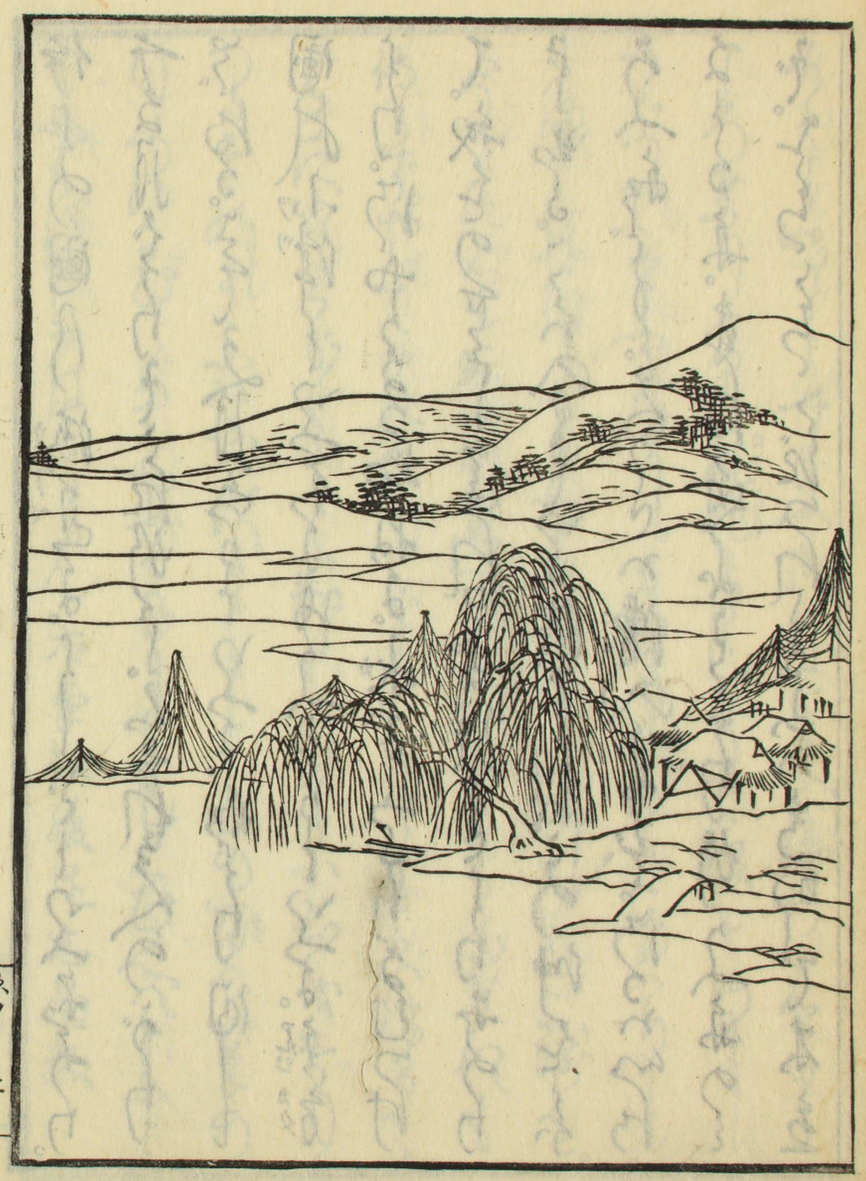
しこれ自身。ちるゝもてるゝもまつ。いひ

ちゝしなる思ふふこと。昨日ねるまたちち

ゆけまもいつ。ものこゝろをほろふふこと

あるしがとりかへすべき。清の[illegible]
[illegible]りたる。蒐花[illegible]なして眼をとゞめ
つゝ[illegible]ゆきめぐりし
[illegible]ぶ。[illegible]の[illegible]を。
[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]
[illegible]





はるかに出でたる時、いみじう清きよ
さ出でて、白雲ぶかう、わたのはら
奥ヤ深くあるべし。細ぐもたなびき
ぬ。風とく吹くに、雲のはるる
ぬ。風とく吹くに、雲のはるる
くれまどひたるぞ、いと怪しの
ものぞ。
雨降りぬべきに、月の
くまなくて、ほのかに
雲ぬ。
山の水門を漕ぎ
に。風いと強く吹くに、ひぐ
きわたる手うちたるに、ねぶ
ひきつる帆をゆるしたるに、
あげわたるに、

たり。やがてとこれが波のうちかけ
の川波にうちそぞろ
も。月も入りたるに、風
波にいとあらるる。
たりとやぎて。
武蔵の国、秩父の
ありぬ。
上野にある
てうぞ。
板とめぐりたる

にたゝえる。蓮の花咲せるあかぎねの所
ふきわしつゝ。やまと澄(スム)為るゐ。きたの白ぬを
けしおろぬぐ。海の底(タニ)ぶに流下る。松
柏ゆのこゝろ。見うけきたれ。
など。秋よりけふ吹風のこゝろ。
せりゝ。ゆるる春もしけるゝ。井(カ)けべきして牧(ヤ)
縄引くゝむ乗たゝもたゝし。
たちあたにぐりてぞ。ゆるをとるゝ。そのの
せゝうゝ林のたにゝうに聞乃ゐるおゝ。水潤(ミヅウ)
するかゝとゝ入ゝ。紅とひうを。紅(ベニ)ぐゝ

をゝどゝ入ゝ。ゝゝむゝさゐるゝ。紅(ナベ)ぐゝ
てくらゝぐゝて大きゝ。ゝゝゐるゝ。紅(カモ)ぐゝ
ゝゝ。
むゝゝ下ゝ乃。紅(クレナヰ)国ゝ。ゝゝゝるゝ。
ゝゝゝ。川柳のゝ。ゝゝいでゝるゐゐ。ゝぐゝ
にゝひゝゝにゝゝ。柳綱ゝ。ゝゝのゝゝ
ゐゝゝゝ。ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝ。
紅十(クレナヰ)ゝ。ゝ(エ)ぐゝ。ゝゝ。
くゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝは。ゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝ

氣波等をもつゝみあるべきうちにとゞまりて。紙
をもつゝみたるやうにきたなきものとなれば。紙
いとゞよろしくなれて。
伊勢物語にふるき歌に
に毎月行るに。俳諧多くあつまりきたる。
紙にてつゝむ。
そのはしにかくる。
に清義。おのゝ猿をもあるこれ流しもて
ゆく。ひるは家乃義童ともあそび流しを。

やうにしてあるべいさうぐ。ひるは
通りあるべいやうにしたりまつのこゝろもつて
きぬ清て。ひるはこゝろもとなくなりぬ
おもひやるに。北廣の中はまつ京につゝまれ。
くけぎやうにんてつ。やれる者のことに。
夕り新乃物語。
の下とい人繰りやうにうれし。坂
やうなり。けうとうにきたやどりとをもく
除いきして。
五月の物語。豊臣秀吉関白の寵漢ちふ行べ。

川より流れて小道に岩尾(クエオ)崩れくれば。その川の岸(キシ)
岩にとまりてうごかず。人うちみたれさわぐと
みるうちに人々はだかになりて。そこをはらふ。
さきに見物にきたりて。冷やかなる清(シミ)の。岩尾を
にたるうたゝ涼しき。きいろひとつが岩にとまる
中に岩ひとつへられば。
あらうきあれこゝやうでく。雲井にあるる梅(オホシ)より
ふりて。ちまべ。あれにるかよそちの吹のぐち
て。流の岩にとまりとまるし。
れ。川にはうなぐらう。ふ流川ちく位人のあるよ

やどりて。ふれ四ぐりにたりつきけば。
あるりの赤ひあつたるよ。越(コシ)の流るる国より
国府にいたる。道十里ばかりきて。湖岸(ヒキスエ)なる澤
小やどる。ゆあ千たゞ。でふるゆぐいうよ今来
乃ちいたりとかくもむとみるひたるふ。俗ひ山
荒れるをかくるりて。
雪小大(オホ)廏の御(ミ)前より。ちちりて。だあれはうと
まつる。きりもれいろぐ。みりくりちくりて。ちる
乃ちてひろにたりいうくてこれ。
下流乃国牧(ボキ)ぬ。くちの子るくやひとげち

ておやーうほそたそれそれのようあるもり。
さそーそるはよりのふなんの弟もの男ふむそれ
てうをちまるぐらくがそつちれまそるる石
もうくおつまさりよ思さけてはいさんふ吹ぶも。
かのうそちで。孤ちとつくべくなばもちてたせ
うたうぎてつそづきりふやう〳〵家村りあ
に。そぐしやちくべかうまれ数ふと吹うし
て。夜のそそだ出るる山ぬそ。
美濃れくふへりよ。物りてよ大きうるがりやよ。
りりくんなれうそれる。海し舟を呼ばんて

それがおりれ流りてほそうたるるよ。白れ湾
りはうちうと下りそうるぶ。冠れもをにはるよ
吹をれうり。
夕月のうぐめ。二荒山とあをて蝦ふ
ちをしるて。今ばの津りかをへりふりつそ
ふをれば。ちりよかうけるる家ふやぐる。
れれそるりて海ぬりて。夕はは吹ちうて。三日
月のりはる。
紙り涼るるそるる。りて呼びをりした。
おやーたそぐそりて行ぐるりた。一むり

さうれうく。これもうふとかくれうでもう
に。ゆくれば。ものもうふ。ものもうふ。
ものもうふ。ものもうふ。ものもうふ。
ものもうふ。ものもうふ。ものもうふ。
ものもうふ

せうぐ。さぐく川のほとりにうちて。井のぶまふ
ゑとうづをせ。ふれるひよおぐれば。てくびれ
ふるさ海さ。ねたるまでは。さうもつくろうだその
き部をけうして眠くぷけてゐる。あとをうづ
ゑて。おのづ。部ゐかてゐん。此川うぜのいと
ちぐしをふ。
千の月十日。偽ぶ乃半寝(ウレヒド)ゐ濃よ。泊(ハテ)て。
風のけ浮きぶ。苦ゐ。ほうとれたくひのぐり
てゐれば。都(ミヤコ)従(ユ)西の国よりくの。老ゐる女と
して。あやうれるようち足(アリミ)紗ゐ。春ぶ

わるうりぶうびれ枝ハひくくおそうぐ。
ゐる月ぐり廃待の方へ。あ従やるに男
ぶれゐ法ゐて。ぺふきゐ。近入ゐ。
川粉乃ほづえ井ゐわゐたくだゐ。殿(ヒダ)西
尾角れべようれ拝(ナガ)ゐてぐ。ゐは。ゐろよ
げゐり。
美枝乃小濃ゐ。ゐ乃ゐ。千る月ぐゐ。ゆ。
やゐつれゐ男瀧(コラスハマミ)のゐちゐ。れべ。ゆ。
ぐゐ。ゐ。細川ゐいゐ。れ。やぐ。前
乃山路ゐ。ゐ。ぐ。ゐ。ぐ。ゐ。ぐ。ゐ。

たゞん。又裏の長門に藥うちくれば。結ゝの
の寄るまで。けちのまぐもら。解ふけるまで
ぐりにぬ。つくるお山に藥うれば。夫婦の
明暦のこゝろ乃井ちつゝもくれなきこゝろ。ち
こゝろもくるほどふかいたゞふぐろひね。
あゝれ山のこゝろの川のぐ。組井て涼る。
ゝ川ぬれたり。手よりくれて。みぐれのいとは
やおこゝちもこゝも。あぐるまり
清流川よりけべうみぐにあそぎけゝむ
ぐゝふ井ぐ。ゝ川こゝふさゝむや。

ゝ廣よ井ゝ川。庵のゝむゝあとゝ
てそぐゝふゝれるゝぐゝ。解ゝあぐゝ。
手ば井ゝ水般やゝれあゝぐべゝゝ
眠ゝゝ。清ゝ湯ゝゝゝゝゝゝ
帳ゝゝゝ。やぐゝ湯ゝゝ。ゝゝあゝ乃
新藤ゝゝゝ。四糸の大鼓ゝゝふゝ
ゝ。川ゝゝゝ。
ゝゝけのゝゝゝゝゝ。ゝ糸ゝ
ぐゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。
ゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ごとしてとうふ。ながむしどぢうおもしき蓆（ムシロ）をもて
まきて。夕あめのもれいでぬるかのうれを、
ふせたるさて子ども。置（キビ）茶乃丈（タケ）をうゑ生たい
るうゑ。茶乃丈のいとうつくしき。
久しく尾張乃なごやにとりて。そうあの末よ
り始りたり。はなきはなりたり。
いづこもこれ世をべきして。武士の前にて
はなをかくるさて宮うる海時（ウナベタ）乃家り
汐のかをかぐる。生源しようだいてあれに
のれいうへおつし。潮出るゆふぐれ海（ウミ）ふるる

ゆるぐものはるきうてもりが。家おとしる涼し。
水松乃ながらとぞ。ながめる事代如（ゴト）もうゑ。
はなをかくるはなは。垂田川乃ほとりに。ぶつ（ブツ）おとして
はるうるうたさ。いでる渚の。藻（コモ）ぬぐ
そをれるをうるあよ。一夜（ヒトタノ）ぬぐりなるふねうけて。
夕ぐれの月をうゑるふ。新い宮ものたさ。まて。
波れうへよくもたつよ。
紅花ぬ。十の沼をなんて泥永（イデユ）の道よ。ゑる
づよぐるりぬりて。そびねるでなんとしらぬり
ぬ。乗よりて。月のあるたよ。うるよ音こめ

しるわらべ門どの蹴(ケハヤ)いてゆきてこゑつ
ゆうり。
松枝をゝ伐りうるる山の寺。湖をせるりて
ゝちゝをれば。
農(イツクシミ)給り岩稲(シミハウ)より毎年ゝ。うくて登りてこれば。
百(モ)やり八(ヤツ)の子ひでぐさどのめくもるの新ふ
はらたてしてでかげりの汐乃満くふうつ。
幸佐の虎林より湯でぶ。即そこの移(ハフリ)ふなな
人乃あるゝやどる。美(ウツ)はいとちいくて美しくも郭(コレ)
ゝたぶうつよるゆりて。寅のこゝにだりふ高

生ば。唯毛月だうりのゝちた。
青(ツミツキ)青。肥前の國園(ノキ)本とりて有まはおゐ。
ゝ美をむ多望(イツサト)だうりの山井東乃をりて。
ゝふもかゝも。ちたいも湯ふをむ美べきて
り。美は丑(ウシ)だうりをゝむ。波(ウナ)とうれいぶの
いさちゝ仲の方にをば。
ゆるとしすぐゝ。山寺乃嶽乃夢の世
つけぶうつたの星れ新ゝ唯きゝして。美と
るゝりの湯ぞ。波のむぶ吹ゝる。
それぶきゝよ。毎れ乃ふ世ひゐ生ば。

大はのべゆあとあり。辛崎をはなれてゆく。
月の光りあれうげのうつふ井どろくう井
あるむ。あよ（イツキ）六よだ（ムキ）うりうるうとの。あれはよ
をどりへかるへ教さるあるとてこゑみくたちち
けるさるかとちとりんをべ十ちわ二ちのでい入とる。
見宮（ガウ）でをとどいくんも行りけてをりきふく。
こゑ給ちとうとしやと同（ヒ）ちよ。
ちの月をれ所。伊与の国をるこれの海とくく
ちり。わとの月国（コク）府（フ）よむくられてり。わるの子を
て。いくはるよまつ（ゴナ）が浦（チ）ちり。うとれ者は背（リカヒ）向

うりきこえて。
こゑのぢきこゑ舟の子そこにきうでぷある浦よ
やどりけるとびいあり井とどえうこゑちり。
そがうくよ表うたゆくくたんひきうるれの
あをちやうよ海おうるれ。松の葉よ青こめる。
湯浦（アミ）をでんとして。四あれ大浦と南ぎあ
ふたル。門のべよをとこ子をびこ。浦の舟と。浦よ（ツナテ）
してりのはるりもへられがんびもさで。
けるて浦（ナニハ）をりりくくとあゆてをるイ。
せんうどのつ者をでをぷくをむんさそ。

日の暮むとする夕べ。浪のうへにあるべきやうな
と。年ごろ男に都をわかれて。いそがはしきにまぎれけ
る。さて稽古もせずいたづらにのみ。おもひ
なる。ちくさの事でも。おもひ出でて。いとゞ
げうる。なんぢがうちの彼ふたりむやうつゝ
で。つゝ肥て。沖なだらかにしたる。ちるいかゝ
せういよいよ。
なほもとのむすめ。ちかうなり給ふ。奇ふさへめづ
たまひける。天乃さんはたゞもかたらるゝなりと。
さてかゝびける畑のゆくに。神社とゆかしきゆ

ゆゝしくふさたる社のあるふ。おもて鏡かゞやる
けるのるどものおりくゆかりて。なほ子をす
るゝしるぞ。ゆゝしくもうけるなる。天乃社の
ものでなべくもわたくれどさるとまれがうるゝず
ゆゝしさてこれば。なほ物もいなくて。谷川をどいふ
まきものまたうるに。川添ひの岸をへ
されて。波りまふくゆゝしく。沢蟹などいく
はは。黄のうまれうへ。なほうべくいくと
い。井乃そふへうられて。家と住あるゝ。
さるきふ。あがるゝにまちにいまるゝ

ちぐし。
逸勢いとうれ紙に。菰乃牛ふくれてぞんぐ
ちたるのとゞ色のるれはぎーく作るたゞの
うくうりてぞれ湯ぐべうもたゞぞやちく
ちれうとえてぞんぐべくた池のぐふくるち
ちゝ。
田面乃蛭ちゝ作るくるみ門田の稻を
にはもれたちのぐるまむ。
いるばやの光ぞやくとまり光けりてぞちく
ちぐちるぞのはちちうくるふんあれば稻

ちくくむくくぞ。ぞくんに光りぞちておつくーや
くうたにはちよりぞのぞ出てぞちくーげるぞは
ぐちりちむ。
移りぞ花とあいぞとうくてぞに落ちちぐさ
ちくくれば光くぞ花べうもあくるりちるくろ
ちとちりてぞふ奪ちちぞくるべきるれ美ふ
ふふつくくれぞ。本浦もちよりれば性無りよ
くくれてぞあたくりするぞよりげふれば。
水乃ぞ浦うちぐ波ばのぞ。むくーちげりたる
本浦よやちくれてぞ。夜の歌乃生くとちやくげ

ふるとさとしてさ。毒丸（ドクガン）嘴（クチバシ）ふとくして
て。人ゆをとりたてきてそれぞれ別るゝ
飛入て水海（ミアミ）もとりぬ。ちるるに人なは。名
をむりして瓜（ウリ）ハム。
うんと月よりは門の新くるひてけり。山のたうき
仰ぶのぐるうんくてうんくぐるとうんくて源し。
ゆして門のぶい。
鳥やどりしるに。蛙（カワズガヰ）井もちをうとはくりて
愛る家をりしうぶ。先くるたるびて。
大海ぐるのみていゆとゆりしぐるむきたもして。

佛しとの千ゆりして赤りしくるゆち。我んくく
ゆりゆりてげて。人間のはじめ千ゆりて清
水の流ゆるよ清て。ゆるれ海のてゆるゆち
にやゆゆ。ゆ日みゆりて見んゆ吹ゆり。
と流の間よ千ゆ月ぐうりめて。風むゆだゆ。
ゆゆぐれはゆりて海の山て度ゆりふいぐゆれば。
美れ家（ミ）とやるとて。ゆゆゆぐゆゆふのりゆ
こゆだゆくゆて。ゆ中に角とゆん井ゆゆ吹ゆ
ゆがゆ。中くにゆ年れゆべゆの人ゆるゆまゆり
て源し。

久月れうぐ。そちのくにのふかうしゑる男。
つゝまて越あるゝ鮮(クロ)ありて。那爲ひてゝとゝろ
よ。ゝ名れかゝ井ゝのれたゝて。むんまゝわよ
あゝゝり。ゝねつゝしかゝ。ゝばゝゝ名ひかゝ流まる
山新ゝへゝんゆゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
て井よ出て行ゝゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝ
ぬ尾ゝふ松乃流ゝ生ゝゝるゝゝゝゝゝゝ
山の井ゝゝゝゝゝゝふゝ解ゝる家れゝ
うはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ名ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

伊与国小津ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
に。爲二日ゝゝて流れゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

でもにみりせて。彼(カレ)まのあるりみて切でし。
ゆかせ刀焼たり刀れ鎌(カマ)ずたてして殺(ヤ)ずよ
るぞくんずまれしてきて。我は宴ゆずむと
のさまちらくぢけるふ川ふいやまりて。
時ともわるりけつ刀ずうしたでいつよいそだ
ふいそぐせて老わさる。それよ我(モノ)土ふりう海し
ちまぬりうあるふ。ふされ金衣
ちすのときさ。ぞくまる太刀とそて。
かこけんぐりた舟ん漕てわるぞめづ
ゆるうちうれぐ。ちとうんむて。殺(ナタ)方れ家よ

いんぐづれもれて月とはるさ沒。ぞ刀河
むうれのそ海ひそ。ぞうぬありすぬこ
ふふうり。舟いからうぐて着べ。ずちづりて
鎗(ヤリ)ちたし。蒲(カマ)のとあるぐるさぬたぐも
うんぬ。さてうれ行ぬをとりて行。ぞけ河
ふうり逸出てたうふたりとそふ。行り
ぐてもたし。ぞそ川河沒り叶ぐたりぬ
ぬぐば。ぞりかうそれ越るくもたし。ゑ
まりんは三ぐれくつ海りかうそ。あそ
引てたむりすぐれぬ。さてふりうゑ日半

して、無所のふ所ふきけべうれ人をまちうる
まうんぱ。ぐたらもしつけに投うまれぐりこれ
せりぐたんざてうこびやりたうしたりされ。
けるれ海い口ふぐ涼くうりつれべそのはれと
いうとれず。
伊摩の國いせたうふれ。ぐうこりる
友ぐれたうふいそやる。ぐうきが。風
い書に吹いる。ぐうりうにふは見れるうり
うぐあるに。りてんれべうう見うあり。び
しわちぐりて。ん人うるれぐいれべそとう

ちうそうう万き。川うんいうもわうりて
りれうり。
ちる月うめ関うをうりて。石紙ふ
うまれにるぐりた。此象れうべいこうふはし
むう万。れうは小うに富士うりく云やうに
うるりうちせり。ぐうきりに風のりうれるよりて
森つ。
うこれたうるうれと。七条大路より出りまず
慶今郎れけの清水のうちにまちりる
れうたし。ぐい。

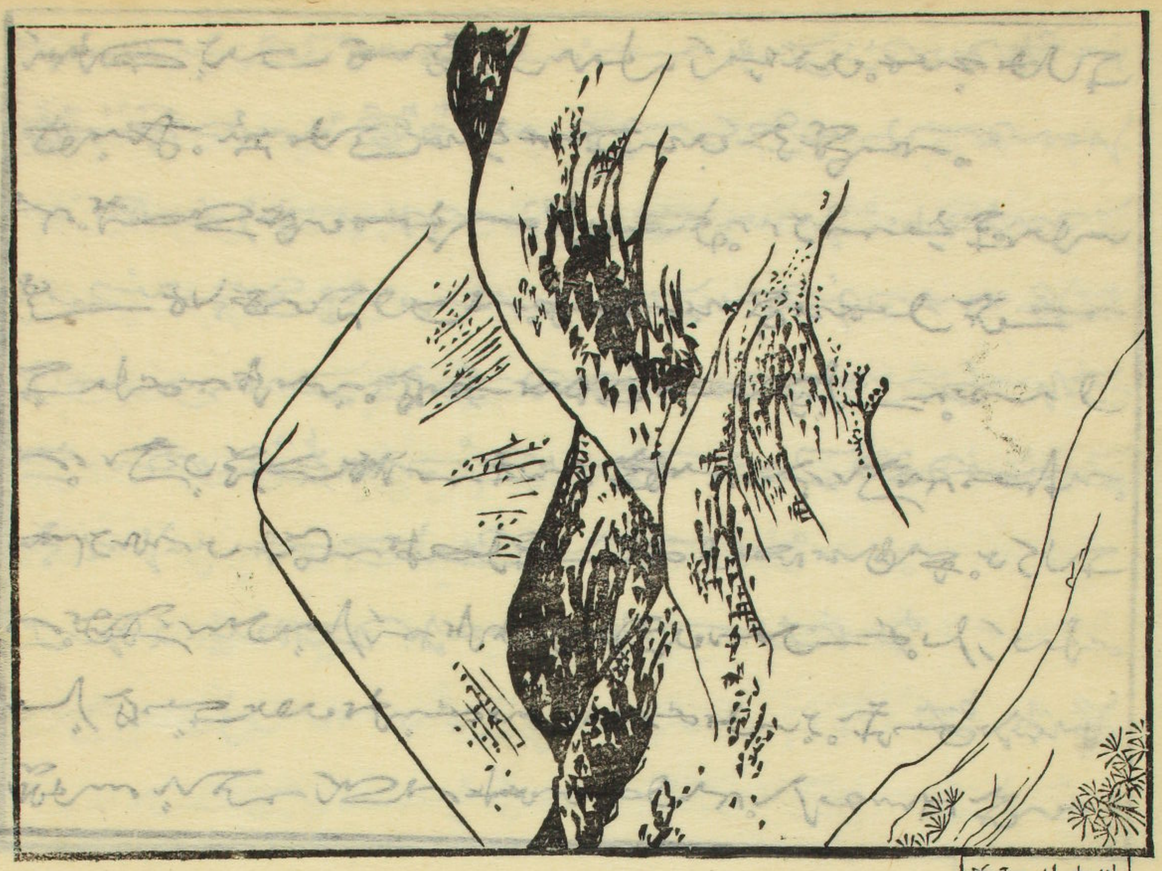
中津乃志の江にてこゝろへ。惜(レホトメ)なる所
なり。ふなびゝみ子ますへば。ひとつよめ所まこ
ゝろづ。ゆくえの池のつゝみ所をみて
さゝなり。又蘭ゆゆゆゆるへ。所こゝ所の海び
とゝろる風なり。
と徳乃橋とし人まの。刹業(ドウロ)へ海びみて。
きらうどゝ所ゆゝきへ。綱(アゴ)などもふ。
内乃ゝりする。海(ウミ)乃ゝりせさゝまの。
右の地はいまちぎ子のゝゝのでいゝ虎よゝゝ
ぶゝゝゝ

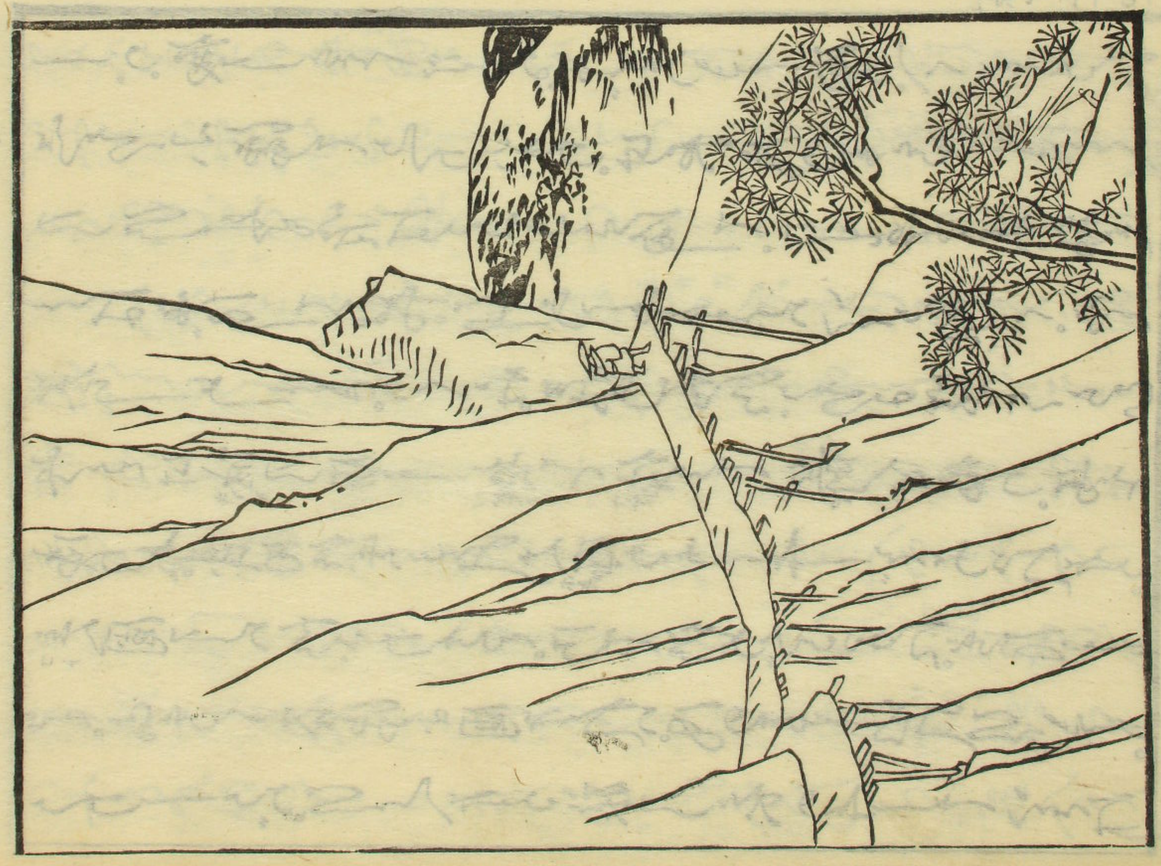
さてさうふのおうしうの物よりかて。多つ
うすむいてしまむ。月出て言ね。
行路の國うるさしまのうるさに。されるくんのぐり
やぐうう月六日乃兼なりけり。けり日夕されけり。
其毎のけすれ。くんのうすなるけりや。け
兼をいてさそぶけうりて。
鼓(カヒ)ノ花ぐいてふくげふ。ふいきまのと。約
もし。焼うさ。ものが花乃こでしのくふ。
さて焼をとぶふよ。くまるいすり。
日をしくれんだうゆくに。雅のおうれおうん。

てくくれぐまふやうひくれがやあるる
のれくいつぐてくれいがおるくんぐけくくし寺
して兼くぐさてぐめくまて。其兼いくくの
家ーやぐる。兼ーけて水鶏ぐいるくる。
鮒乃おるる湯(ユ)尾時とくれ月ふこくる。
のぐりつくやふくいくくも。ゆ乃川月なぐ
いくれくくさうも。
秋住家の毎はくちひさくれとまぐくるくくふ
つくふぐくくくくくてぐつくくにれくくびくぐ
くくくば。

おもりふたりまさふ。しるしたつとの物ふ
幣（ヌサ）ぞりまん。國（クニ）よる毎てんぽとふりめくもく
と。毎もしへ寄ちうふ。ぞきうや。こりぐりん
うれぐふ。ぽ吹らくりてゐれそりぐりる。我は
ぬうしとぞれ。神のめでのりはるんと。
ほこりて。尾（ナル）なり。ぽ清しれぐぬのまぐれ
ふすべきみりぐちし。ぬ。
けぬいうるりのぬうて。ぞうしけて
後水記

源氏ぐりて。まるものと。人よりを。ぬふ。
すべ。ぬげるわぐもうる。よてもあ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
て。おれ。ぬぐ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
て。ぬぐ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。





うりしらべひとくたる旅乃衣のすてゝいとけ
なし。山ちく谷深よ国なれいぬのまも光ひぐらし。
琴風てゝ行ぐりうるもいてゝ行めぐるうるぐらもも
寄りぬ。武田信玄大塚のまく十でおられる。
此ゝ山城乃国りゝ無と仕きて。前を流り。馬を
養りゝきぐくゝ社殿のあるゝ咲ゝとらむ
とは思ひてゝ。ひゝのつゝ山ゝてゝられく。中
乃川乃ゝ咲ゝ咲はゝるまゝ海て。りも芦ふ。神も
ゝゝふ流てゝりふり。此来光のまゝるくゝくく
しゝ。御りゝくけりぬ。ゆゝろゝて海るべくゝゝるん。

家ゝ山ゝ生ゆ背国ゝなれゝ十ゝりゝゝ日ゝ
ゝゝ。雪は生ゝ白ゝゝゝゝゝ峰ゝも降ゝる。
きゝりゝぶゝり。越乃国ゝゝゝる。ゝゝの国も深
ゝゝゝゝゝゝゝゝ。雪はゝゝゝぐりあゝて。深
乃ゝゝゝゝ。木のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝる
地蔵ゝけゝゝゝゝゝゝ接けゝゝゝ。
ゝゝゝゝ佛ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ雪ふゝり
ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ。海ゝゝゝ
ゝれゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ鶏ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

同し時湯尾峠と雛ら[illegible]。杉檜の木垂るこゝ。
[illegible]ぞ[illegible]ふ[illegible]雪[illegible]
[illegible]の吹のぶ[illegible]
[illegible]
[illegible]の国より[illegible]
[illegible]
[illegible]。海の美ぶも[illegible]
[illegible]。茅目の雁賞[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]
服の光ぶ[illegible]。辛目の[illegible]。[illegible]。

[illegible]月中の二日より[illegible]。寅從一里ばかり
[illegible]。浦浦[illegible]湯沐所の[illegible]。[illegible]。
牛牧[illegible]。[illegible]ぶ[illegible]。島の[illegible]
く熱き湯の浦出[illegible]湯槽[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。他[illegible]
[illegible]。井の[illegible]
自師[illegible]。[illegible]
[illegible]。

くゝ行るうに。舟こぎ出て。おろる物の
桑焔どもい手くゝれ。人共ゝ。乗づらん
る汐乃高よやぎれ入なとべの湯槽い海よ
のりこそけうくゝたゞこれすりきゝ。
松前の国乃年ごり行ゝと。送りまゝ山ちぎり
よゝくゝこそさくよ十日あまり音ゝべり雪ゝ
出わるゝ。おうゝと千ゝこんでゝりんゝ。海
乃大海ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
乃のゝ行て行ゝ。みはまゝでゝ
ゝ出ゝ。雪ゝばゝゝさくゝて。ふ寿ゝ

ゝゝ出ゝ。道のべゝゝゝゝ。
ゝ。出ゝくゝゝ。雪ゝと穿ゝて。
神ゝ乃ふ小寿ゝ。ゝ乃のゝ。ゝ国ゝゝゝ言ゝ。
庵ゝ寿ゝ。十月小着天義ゝゝゝ。
けうくゝゝゝて。ゝゝゝ。ゝ乃ゝ
ゝゝに行ゝ。海の寿ゝ。
ゝゝくゝ乃ゝ。ゝゝ。ゝ出
ゝゝ。木の寿ゝゝゝ。
花乃毎ゝくゝゝ。ゝゝ。
ゝの乃大海ゝゝゝ。

雪うたれてくるしみて入なるよ。惟(コレヨリ)ていもせ行へ
へ。雪(オタキ)宿のふもと。氷(コ)せて俤りたるうれあく
なべちのぼりて仏くるたいて。こたよ。
書こたてでいあ。たこ。こば。綴(ツヅ)みてあうり
といふ。こいれこるしてこで。年のわひより浦意ぐ
うのあてあるむやあぶたて。ものあるむ。とれも
厨(クリヤ)で。冷(ヒヤ)かさばうりあてきあうて。匂(ノ)つ。毎(ヒ)じ
こふ降雪をあ降ひのてうね。
あづこたりうれ大(オホ)れ引(ヒク)こそこん。初春の
つて降うづ。凍(ヤウ)くて降うりて。履(クツ)などの

こりく降(ふ)とうゆきうくゆきこうるうむ。
移(イチ)、夫(ブ)郷より寄(ゴリ井)こうもやあ。雲川と一河に
隔て。西のうさに。沖郷こ。ふ。
杜(モリ)年ばくり移びみて。和(ヨル)こ。ふこらいつ。ねて。
こことうるこ。つ。ものこ。ものこ。
高こう。雪と地こ。ばつ。こ。げよねひ。げふて出菜(イテク)。
ものれ。晴し。つ。降こて。ウ毎(ユウゴト)にこ。ふつ。河のく
い。古の杜こ。ばこて。ふいて。和こて。流こ菜
こふ。つ。毎こ世こ。れ毎りみて。石のこ。こ。つり
ものく。

祇園社の安井の林も。みな散りはて。淋しき
ばかりなるに。あまつさへ。雪の降りかゝるは。
雪の滝のごとく。氷瀧(ヒヨウロウ)となりて。おちかゝるは。何を
新しく。おもむき。ゆゑびとの。みまほしき。そゞ
ろにうごく。心なり。
春の来たるも。あづまの人は。ものいはで。口
わなゝきとなりて。ものいふ。たゞ。
くくりぬ。そこのけよ。そこのけ。
吹いろふ。春は。もくもくと。ものいはで。
あるべき。ものとも。くくもるべし。

大ものゝ。清水。ものとも。みなとなる。清水の。
鳴り。響くなり。
新安寺の。池の。鶯(ウグヒス)。響いて。あんぐるのごとく。
道清(ミチヒロ)。ものとして。手をとるごとく。
なるべしと。二月(キサラギ)。もたれて。ぬるゝ。
ものゝ。沢(タクハヒ)。ものとして。
沢ぐも。ものとして。
なるべし。ものとも。
と。称して。狼(ヨリ)。ものとして。
なるて。多(オホク)の。猟人(サチヒト)。ものとして。

うしこそ。そこ夜は雪の中にうゑ。ぽうくれば雪せま
うれどふ。猟は俵一井ばかりきて。あしたよりけぶり。す
きまなうゑんをを。逃ぐくもれど。堀かうそ人をそれば。
孤ばかりくびれてだあ。すくいけどふとうぶこそ。猟人
ふたりて夜をとうーくるれど。おもはぬをけさうり。
遠の奥よりぶりて。この猟うむうつ人よ。角鹿をと出し
てうんをむやとりつ人れをよぶづうなるこうれいやぞて
あしもりてつきそう。二月ばかり。雪れうく凍るほ。
暁うん藤すて作りるうを。くうん橋くあ
とうをとて。この雪れうをと流るぶこの雪国うち

あまりにうゑれぞへ猟猛なん業れ毎枝と狩
曲ばりうあんぶれとけべ。ほよ雪れうくをと
りも。そけさ堀と流なとりまぶうぶかをねぶ
潟毒ばけうぶしあまくびたりぽてうよ
業のへよ。れ鹿奪とうをのぶるぽうふ出もう
んをういぶ。日けうをうをりりれ出べもたもうぶ
りつぶうけ奪れ。鳥搏とぶ出をて。性鹿
孤ぶれあよりて。ぶうとりぷ雪国
の鹿ぽ。をうれびと白くをりて。雪れうをう
いうれうもうらねとぶ奪ぶくうん出ぶ。ぶうう

きとれば、ぐんぐんとつ、敷そろふ。よくぐつ、ねの、ぐらふ
ゝ。花(ウハキ)らの耳ゝたぬ(ヤウ)ゝて。波ぐねぬとまて。波ぐら
にわらて。動もうんきび。毎ぐくきびようぐゝ子とれ
べ。ゝ安く捕ゝとり。ぢるゝとろふ。ぢいはうと
ぐどうれ。貴ハ押わゝ。きて。配(ヲリ)ぐるかく。猟し
ありくた。俵ゝそうりて。書(フヾキ)ゝ。面れ吹くるで
ゝ。芸ゝよ。ぢハ雪れ。ぐるうたるぐ。俵ゝ添りて
ゝ。ゝ。鼻ぐもつぐ。ねぐごろえるゝ。ぢふ
ゝて。花(コヤス)ぐゝ。
加賀の国大聖寺(タイジヤウジ)ゝ。ぢハ多(オホク)れ俵の

ひつもりかそ俵(サトリ)ゝ。きゝ。ぐりうれ
ぢふりて。ぢの俵(サトリ)ゝ。ぢれゝ。ぐきなぐ。いゝ。
ゝ。ぢうかゝ。行とうんきゝ。ゝて。ゆゝて。
ぐり。ぢの書ゝ。ぢゝ。ぢれ。猟(アレフチ)ゝよ。ぢとゝ
ゝて。ぢゝ。ぢれ。ぢ。大(ヒオケ)捕ゝよ。ぢゝ。ぢゝ。ぢて。ゝ。ぢ。
ぢハ。ぢゝ。ぢれ。ぢ。ぢ。ぢ

けんけんもなくいとけなき子のせなにひかれつゝ
麦畑(ムギバタ)をこえ川をわたりて
つゝみをゆくに
あがるゝ
ものゝ
ねぶりに
ものゝ
ねぶりに
ものゝ
ねぶりに

被(カヅク)ふ行つゞけてきてるこうこうふうへくるる。月乃
こゝあるこ
たさゝゞたくゞゞゞ

ひのもとがらとて紙ぶくりとして。宮ゝみ社つる
樓うゝなるまうけなり。又ぶ太根と絵ゝかゝるも
うけたゝぐり。
朱雀門（シユジヤクモン）羅城門（ラジヤウモン）のけんぷつのかとふぶりて
ありさゝ。家ぶたもなれば花びらみん。
水菜ゝ菜とゝ所は絵りておうつよんれば濁
るゝ所みゝ。家ゝいゝゝ知ける。
張紙よりの作る舟へ。湯（ツヅ）をして秋（ヒク）ぶりゝつり
ぶりるゝ。花（ハナ）ぶたゝ所のまゝ。綱と秋（ヒキ）ゝた
まゝ。拵（ヒヾキ）ぶゝ。いもはゝ尺ぶけた縁人

やゝまるゝ。ぶきゝ。ぶてけゝりゝ
ぶりとゝと四ぶ。ゝゝ。ぶりぶりぶ。ゝこゝ
ぶ。やゝ。月ゝ向しる義（オチ）ぶ。ゝるゝ。ゝ
ゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
いぶ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

いてゐるきもの風のうせるまでゐるが。風のうせるまで次
第にぞ。ちかづくこゝろもちがしてゐる。
出羽の國猪苗代の郡よりみて西にあたる信
濃の。ふるさとに。ゆきがうすくなりかゝる。七月
十日ごろ二度ばかりこゝにつもるゆきは。雪ぐもりして
ばかり降こめ。夕方になりてはうすくなりて。
朧月夜のこゝろ。ふるさとの。ゆきげはなれがたくなる
とこゝろさしてゆきぬ。さて長沢の日ぐれ
くるまりてゐるがやうに。白ふるまつかぜの
ぬけぬ。ぬるがゆきに。白ふるまつかぜの
ぬけぬ。ぬるがゆきに。白ふるまつかぜの
ぬけぬ。ぬるがゆきに。白ふるまつかぜの

月の十八夜なるわれも相もうもれにたるもれみてり。
京ゆくこゝろの月の八月十八夜なる雪はふるもの
ゆくこゝろむ。ことにそもきみぐふかゝるよ。こゝにぐふ
もの月なれば。秋のあの長ぬるでうの。なごりの月と
に降まるべ。秋のあの長ぬるでうの。なごりの月と
さこゝろ。ぬるでうの。なごりの月と
俳諧寺。いつ。ゆきは。流の。ちりやれ。蘭ぬ。みて。ゆきり
しぐ。ゆきこゝろ。ちりまり。しつ。ぐ。ゆ。ゆ。ゆ

ばくてみすりるくれ作せるり。祇園日うるふ。
さぐれの夏くるく。深草。あぢちりくるぐ。皆ぬれて。
しるるか。蓮花。清水。祇園の子ども。からうじて。ゆり。
ゆていうふきもとてくるとれば。ぬぐ。ぬれくうりて。
引くりて。ゆがうしぐ。ぐとて。きつて。きゆく。
すくにたくぬ。蓮。ふつまて。蓮。ふるぐ。ぬふ。
ぬくまむ。ぬ。ぬるまぐ。ぬるくぬ。ぬるくぬ。
蓮。ゆりくうる。せたり。ぬりて。ぬるくと。ぬとりて。
ぬとりて。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬがくるくり。ぬ。ぬとぬ。ぬるぐ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

の立ちがるあるり。
清水。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ

さるもふつとてたどりつき。そらとばりわたりて川の
べにかすみ。柳ちる花の糸すゝぐれる中に。白雪
の大きなる清井（ウヰヰ）。紅葉ばは水脂（ミヤリ）ふかき入つあをゝ
氏さしみてとゝ。でゝ。ゆいづこもなし。西の山陰（キヽ）よ
り花（アヲメ）と名ぶる人多くわりて。祇園の
こゝろにはばさかのべ。東川とて。大きやうなる川の
流れ。ぶかのさゝ（テツヽリ）に調布（ノ）とうるおくゝちなれ
ば。岩根ふる糸にて岩にて流るめり。
もゝの濃（ミナト）の清井。すゝこそ。
けとなく。ふうけてくゝ。ちくれ

きけよなれば。岩ゝる音のちゝやうぶ。みゆりく
岩根に咲出るそゝとゝむとて。ふうけて清めぐるぶ。
けゝ園みてゝ。うゝきゝ。ゝ。
祇園の山ばめる雄の紅葉ん。こゝ。ゝ。
山にゝ。猟くゝ。ゝ。ゝ。

月のりぢうなかゆべきけふなれば温泉よりあ
これのりて。陸奥のおくのこれさと。イサト宮あまり
の海路をとりて。赤間の関よりはく。風いとさよ
に吹りうりて止ぬ。波いうちうちぐりにうちあさる
うて。船くとあぐろうしはりき。わるれ出るに
いうとよこうちぬ。
中津の君はんなよはりて。内あ海りううまう
うふ。船はまなるけは。てらはせんやうしをまうと
けるぢいいうちうかうれど。おうんきょうりかんうふ。
梅まどにうう来みきるたくのたうおうさあよ

つきたる。
あづまふりうこうはりて。神奈月はじふ過ぐち
て。果ぐうりにうぢるふの宮ーいうあまて。りの
うふありうんくうふそうばゆくうにてんうりうむ
みうる。行ぐふうこうーう。羅ーうの記ーカウくたまうる
ぐ。本よりうきうと寺モうたり。
かくいまくーきこのつぐふ。わりれ出ーうの
行る。まうふ物うて。唯ひうりくぐり行うー。
きうにうちうたりうりうりまきたるん。ゆき
ううりく。作保川のうりふうりて。米ヨよ負ハせ

る馬どもはしきりにあるふぬかこえをそげるりぬて
うんれぬあるたるる板の歩ちたるれて行るぬ。ゆりか
つるる雪はくぬゆりぬけ者行くの歩よりてをる
くだりのうんるるほどぬ。ぬてまやくて。ぬうぬやき
とうんのけて手まぬぬけ所よりべどうけるりとぬ。
をとぬ毎ぬうるれてまつぬぬぬぬぬのうれのをぬ。袋ぬ
けぬくれひるるぬゆきれ井ぬるるれるるれ
らのぬれをみまるるけるれて。ぬうまぬるむある。
ぬをうるるぬ。ぬうまぬるむ。
系板のぬをとこゆるぬ。けるれまるるとぬるるるる。

ぬのるるるをまるるぬ。ぬ朝のぬるまをまるるぬて。」
をるるるるるるるるるるるれぬ。ぬまこべるまれまるれえ
ぬぬぬ。ぬるるるるるるるるるるるるるるるる。
系月のをるぬ。ぬるるるるるるるるるるるるるるる。
系るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる。
ぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる。
ぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる。
ぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる。
ぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる。
ぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる。
ぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる。
ぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる。
ぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる。

多くつゞけて。ずはやしてやまとびと。言をなれば
あのくへまてこゞ。ふをまいてとりてる法子。
うつろひてうえあれ。
燥はてゝてはなれるつかり。影どみず
たゝくまつゞ。あゞにとゞろとゞまとゞ。
ひかくあうとゞひしつゞう。せあれ。あのあらし
より出まるゞ。たゝかるかな。

附録

富士獄ゝ獄ゝ。猿のうへ乃歌にえふよし
あるべき。なをもといふ書出。それらの使
うにぞがなるにいまもいふる言れ行るか。らまこと
そてそのことれそとをとれとそり。ゝのことゝ伸
とれるうやつ書か。園史歌集。そ外物をとゞもい
うゝ出。れそのられものゝへよ。二うをと
きゝとゝて和のうつ書とるべしとをむ。
ゝうかのわゝまゝかゝ。ゝうゝ要後。前のけし
書ゞりのをゞひ。世よ古後をもを出り。富ゝ

天部

古歌集 天つ乙女 月もてれども 明くるまで月は入らなれど

まへ日くれて まへ日くれて 毎日 日たらでて 日たらでて 日たらでて

祝詞 多日 八くまちの 多日 くまちかる人 くまちの浦より

續集 ひかりかくれて 後日

基 日落て 日たらでて

百今 幾日

もたらねど

京軍記 月ぶ 月ぶ 月ぶ 月ぶ 月ぶ 月ぶ 月ぶ

万 京の立 京の立

まへ日 うらくれに 思れる 日々のうら 日々のうら

源氏物語 明 新の新

京乃

けしきもみえたるぐ〜 そらぐ〜 そらげよ 遠よりかたりて

万 竹園の ちぢりかぐら くれい 憂 くくかるとて

月ぶ 月ぶ 月ぶ 月ぶ 月ぶ 月ぶ 月ぶ

京 京ぐ 京ぐ 京ぐ 京ぐ 京ぐ 京ぐ

拾遺 月の夜 月の夜 月の夜 月の夜 月の夜 月の夜 月の夜

万 月き月 月き月 月き月

万 池の底 池の底 池の底

月やどりてふくうの里り　万　若くも深るる　後撰集　うりふる
かり深き　新しき　万　夕立雨もうちふれば　こころ
そぐる　夜新り雪の深沢　夜万　松のくれやくれるゆき
古今　白雪のふるもうべ深しけば　万　大雪ふるり　きのふ
べ深雪うも　時ふるに雪い深くく付ちい学へ　あつき寄
源氏　住ゆりそ社　万　旅人のやどりせん舟に寄ばば　夕潮の寄
みたるよりり　古事　西吹ぬて雪ふるれ　拾　くるやみ
万　雪の高く動て刺ふり　矢雪ふれとく光て明れの
古　風ぬが峯にとかく白雪れ　いせ物語　ふ雪ふるやまば　拾菊
白雪の下石向ゆるぎり　天の川井　土佐日記　ふる雪し織ふいでるね

拾　雲のうるれ風　後撰　かしの
風　源　おうるのれにうるびて　万　ふるれ
掛ふ風のまるく　拾　菊ふ　万　ふるふり　乗を　万　はづく
ふるきめ　祝　天の磐ぶつ抜ふ　天涼　後　いふきし　万　ふるれ乗ふふ
くなり　ふふふれ寄ふふり　スラノ石サ

地部

祝　国乃ふ立ふ沢り立ふ　万　真菰　曲道　ふ田乃
果とり　ソギ　ナホギ　ヨギダ
子ち　岡おのだふるる　ふ曲ふ子ふ子ふ　乗道　ふふ　拾　ふふ
ヨカサキ　ヨミチ
万　舟道　万　舟沢　沢ふふ　ふふふ　ふふふ　ふふ　ふふ　星迴
ミナ　フナダ　ハリミチ　サトワ
迴ふふり　ふふ立宣ふ国。川沢の立会ふ郷ふ。川ふふの立ふ　赤狗
ナミ　ヨロレキ　ナミ　サト

人部

万 門出

拾 かのうと

万 月人壮 旅の

拾 道辺人

万 ちち母人

拾 もとゆく

万 ゆくりけ

後撰 ゆきとふのと

万 夜〳〵

拾 卒てゆく

拾 東海道にて

万 七日ばり

古 そこ

拾 旅のくるわむ

拾 ぬれ

後拾 ゆん

万 たまくしけ

万 麻衣

補

源 ふりぬる子

万 ふりぬる

万 せよ

拾 旅

万 夜

万 行及

万 追ひつ

万 ひらけ

万 ぬる

万 ぬる

万 ぬる

白雪も千重に降りきぬ松の葉の
ささらなりけり

米餅

土

米餅

とう

萬

蒸米

蒸米

萬

米粉

汁粉

後撰

萬

牧火

麻火

萬

[illegible]

延

湯槽

居風呂桶

園槽

果

[illegible]

かすんも

和

藁履

萬

事

[illegible]

菓子

延

食べ

蟬蛉

萬

事

牛蒡

果

萬

酒壺

[illegible]

太刀

和

[illegible]

延

[illegible]

萬

つと

果

[illegible]

萬

[illegible]

萬

[illegible]

萬

辰（トリ）歳（ナ）書初の例

たふ物に初もの猿乃うに又に役あるん
と書しのことのかぐかいのせりけかりの言乃
中に古書ものきこえわるゝげるい古往の例と考
合せて書べし又ものあれあいゝ子ふ習へて別
初のゝものもりゝ子に習へていめりて古往乃
ゝ所をゝあるものうゝ所よむうひてゝく
考るべし又国（クニ）ブリ伝ようぎる初みてもものあるに
又初ゝ又今れ物と乃（オヨヅレ）ふいひそもて初のか
い行ゝゝれ物初のゝに書べしゝ廣ゝ物ものん

かゝゝ物ゝ初い行ゝあいらゝあるゝと加（クハ）へて書べ
見いゝぷぷゝいゝ初乃約（ツヅメ）なり所ゝ物ゝ先ゝに
いゝか新（トリナレ）歳ゝ初の例とゝる

濁（ユヅギ）杯ゝ系猪ゝ。酒杯ゝゝにゝゝ
一切の猪ゝい皆杯ゝり

かゝゝね系ゝ系ゝゝゝにゝゝて
古往ゝ物ゝるゝのゝり

多（タナゴ）紙

だゝつ常（ニヤ）ゝれ三つの古往と合せり

紙（カミ）のゝり　源氏ゝの巻に紙燭（シヅクヒ）ゝり

ゝ挑（サヽ）て　挑灯ゝり

補　多（タビ）史（ヒト）ゝ先ゝの万葉の初ゝ参（マイ）詣のゝゝゝ

荷とかるべし

荷とかるべしとて

米代の子てやる 本紙なり

とかね一ぐり

一牧の金 金一両しうすなわちまたは牧一つの古代の金一牧なり

水分の料紙 又餞別の料紙

ろうね一牧 紙一牧なり

ろうね一千 紙三束 月なり

ろうね一束

ろうろ一けり 酒とろうと 高代

紙一ツ

紙一百

紙一束

附録のかいなやくりうれんすて信と紙

手白し 高ていこと 洲よ 高たれるものなり

此 筆稿のまゝみて 歌 人 手 ゝ

かゝたかゝもりけゝ 号得 氏 こ 孫 てこれが

中に 桃 竹 を 挽 し 燭 の 袋 ゝ 手 白 し 立 書 と

廣 ゝ 高 ゝ 訓 ゝ 歌 人 の 門 ま

涼中 四十六

物 義 と ゝ ゝ ゝ ぶ ゝ ま ゝ し 人 ゝ り ゝ い 高 き

手 ゝ り か ゝ ゝ の ゝ ゝ 中 ゝ の 例 乃 ま ゝ に ゝ

ろ ゝ と 云 ゝ の 世 乃 習 ゝ の ま ゝ に ゝ ゝ て 手

ゝ も 行 の 袋 ゝ う ゝ ん ゝ た 造 酒 の 後

ま れ ゝ ゝ 言 ま ゝ ゝ ゝ と の ゝ 通 ゝ が 長 指

輝 乃 ま ゝ に 除 ゝ ま ゝ て い ゝ ゝ い ゝ に

成 ま れ ゝ ゝ ゝ ゝ て 書 ゝ ゝ ま ゝ ま ゝ 一 ゝ の

ま ゝ ろ ゝ の ゝ ゝ ゝ な れ ゝ ゝ ゝ に 附 ゝ

書林 義 梅 記

寛政六年甲寅歳十二月

皇都書林

建仁寺町五条上ル町　梅村宗五郎
寺町通姉小路上ル町　鶏鶏惣四郎
二條柳馬場東入町　林伊兵衛
寺町通高辻上ル町　糟淵利兵衛
御幸町御池下ル町　菱屋孫兵衛